

[平成20年8月7日 (木)]

# 美しい森林づくりニュース 〈NO. 89〉

～ 伝えたい木の文化、残したい美しい森 ～

発信元：林野庁 研究・保全課 森林環境保全班 企画調整係 山口  
Tel：03-3502-8111（内線6216）03-3501-3845（直通）Fax：03-3502-2887

ご意見、ご質問は → [https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM\\_NO=82](https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=82)  
バックナンバーは → <http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/utsukushiimoridukuri/news.html>

## ◎ はぐくもう 水と緑の うつくしま

－「第19回緑の少年団全国大会」の開催－

7月30日(水)～8月1日(金)、「第19回緑の少年団全国大会」が福島県郡山市ほかにおいて開催されました。

(記念式典)

初日の式典では、全国から集まった緑の少年団の入場行進、全国大会実行委員会会長である佐藤雄平福島県知事の主催者挨拶、井出林野庁長官から励ましの言葉があり、「みどりの奨励賞」の表彰や活動発表が行われました。

井出長官は、全国の約33万人もの緑の少年団の団員が、森林を守り育てる活動や緑の募金活動など、「美しい森林づくり」につながる取組をしていることに対してお礼を述べるとともに、いろいろな体験を楽しみ多くの友達をつくり、その体験をもとに、美しい森林などの自然に囲まれた、すばらしい国にして欲しいと激励しました。

(体験活動)

体験活動では、福島県猪苗代町出身で世界的に有名な医学者、野口英世博士の記念館を訪れ、博士の足跡・功績について紹介した展示物を熱心に見学しました。

2日目は、14班が県内4カ所に分かれ、「森林と湖・川・海とのつながり」を学ぶため、桧原湖などの湖沼群の観察や、阿武隈川源流の散策、化石発掘体験などを行いました。また、森林文化の一つでもある和紙で作られる赤べこの絵付けにもチャレンジし、会津の伝統文化に



古殿町立大久田小学校緑の少年団



「みどりの奨励賞」を受賞した5団体



野口英世記念館を見学

触れ、「人間と自然との関わり」を学習しました。



森の案内人から湖と植物について聞く



簡易測定器で桜原湖の水質を調査



赤べこの絵付けにチャレンジ

今回の体験で学んだことなどを通じ、全国からの仲間との交流や相互の理解と連携が深まり、自然を愛し緑を守り育てる心が育まれたものと思われ、今後一層の活躍が期待されます。

来年の「第20回緑の少年団全国大会」は京都府内で開催予定です。

## ◎ 『学校林・遊々の森』全国子どもサミットin九州』を開催

「学校林」「遊々の森」は、子どもたちが自らの行動で、森林や林業を学び体験する活動が行われる学習・体験活動の場であり、全国の約3,000の小・中・高等学校にあります。このうち実際に活動を行っている学校は3割程度にとどまっているのが現状です。

この活動を広げていくため、昨年7月開催された『学校林・遊々の森』全国子どもサミットに引き続き、本年度は、九州地域を対象として、8月4日(月)～5日(火)、熊本市立金峰山少年自然の家(熊本県熊本市)において、『学校林・遊々の森』全国子どもサミットin九州』が開催されました。

### (学習・体験活動発表会)

本年度のサミットは、九州森林管理局や(財)オイスカ等からなる実行委員会の主催により開催され、学校林や遊々の森を活用した学習・体験活動に積極的に取り組まれている九州地域の小学校9校、山梨県、高知県の小学校各1校の児童及び先生方、一般参加者等総勢約100名が参加しました。



九州各県をはじめ全国から多くの出席を得て開催

冒頭、島田林野庁次長が主催者あいさつを行い、参加した児童らを激励しました。その後行われた活動発表会では、各校の児童が、日頃の活動内容やその成果を写真等を用いて元気に発表しました。

大分県日田市立高瀬小学校は、「受け継ごう学校林」と題し、「木を植えて人を育て、木を育てて人も育つ」との考えの下に、学校改築の費用を得るため、明治43年にスギ9,700本を植樹したことに

始まる学校林について、その歴史や現在の校舎との関係について調べたことや、下刈・枝打ちを体験したこと、地区の林業家の方から森林の役割について学んだことなどを発表し、これからもこの学校林を受け継いでいきたいとの決意を語りました。

また、開催地の地元熊本市立芳野小学校は、「私たちの『芳野みんなの森』」と題し、平成18年度に熊本森林管理署と「遊々の森」協定を締結した「芳野みんなの森」における、樹名調べ、カブトムシのすみか作り、森の土壌生物調べなどの活動を発表し、これからは地域の方々にも楽しんでもらえるような空間になるよう整備していきたいとの抱負を語りました。



日頃の活動内容やその成果を元気に発表する児童

### (森のワークショップ)

活動発表会の後、参加者は「森の神様」「忍法！鳥寄せの術！」「森をつくろう」「森の生態博士になろう！」の4つのグループに分かれ、NPO法人くすの木自然館の方を講師とするワークショップにより、楽しく森や自然について学びました。

「森の神様」の参加者は、川が近くにある、深い森等の条件を想定した森に適応して暮らす鳥の形態や生活を、「森の神様」となって創り出す作業を通じ、動物は周囲の自然環境に適合するために自らの形態や生活を特化させており、そのため我々人間が急激に自然環境を変化させてしまうとこれら動物の生存を危うくしてしまうことを学びました。



“森の神様”となり創り出した鳥について発表

### (自然観察会)

翌日は、少年自然の家周辺の国有林において、自然観察会が行われました。参加者は、九州森林インストラクター会の案内で、森林を歩き、インストラクターの説明に聞き耳を立て、葉っぱの匂いを嗅いでみたり、手で感触を確かめてみたりと、五感を使って自生する植物の特徴や自然を体験するとともに、国有林野事業において実際に使われている器具を用いて、スギの幹の直径や高さを測ってみるなど林業にも触れました。

児童や先生方は、食事や休憩時間なども使い、積極的に情報交換や交流をされていました。今回参加された方々が情報発信源となり、森林での学習・体験活動が今後さらに広がっていくことが期待され

ます。この子どもサミットの結果は、今後報告書にまとめられ、学校林や遊々の森を持つ全国の小学校に送付される予定です。

なお、開催に当たっては、松下電器産業(株)、日本コカ・コーラ(株)、九州電力(株)熊本支店、くまもと阪神、明光義塾等の企業からご協賛をいただきました。



器具（輪尺）使って、スギの直径は測る参加者

※ 「美しい森林づくりニュース」のメールマガジンの配信を始めています。

登録はこちらから → <http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/utsukushiimoridukuri/mail.html>